

# 共同研究成果報告書

作成日 平成22年 6月24日

研究課題名	東アジアを中心としたアーカイブズ資源研究					
所属研究部局 ・職名	アーカイブズ研究系 ・教授	ふりがな	わたなべ こういち			
		研究代表者氏名	渡辺 浩一			
研究形態	1. 基幹研究 2. 共同研究 (3.) プロジェクト研究 4. その他 ( )					
研究の位置づけ	(1.) 中期目標・中期計画に記載 2. その他 ( )					
研究期間	平成16年度～平成21年度		6年計画の第6年次			
研究経費	年度	研究経費	経費内訳 (単位:円)			
			物品費	旅費	謝金等	その他
	平成16年度	1,685,592	155,671	738,770	46,550	744,601
	平成17年度	1,222,620	520,600	634,020	0	68,000
	平成18年度	593,991	31,121	562,870	0	0
	平成19年度	609,987	100,737	0	0	509,250
	平成20年度	597,030	131,560	206,700	191,175	67,595
	平成21年度	565,689	0	2,900	284,539	278,250
総計	5,274,909	939,689	2,145,260	522,264	1,667,696	

研究組織				
氏 名	所属機関・部局・職名	現在の専門	役 割 分 担	エフオート (%)
(研究代表者)				
渡辺 浩一	アーカイブズ研究系・教授	アーカイブズ学	都市史料の研究	20
(研究分担者)				
加藤 聖文	文学資源研究系・助教	アーカイブズ学	朝鮮総督府文書の研究	20
安藤 正人	学習院大学・大学院人文科学研究科・教授	アーカイブズ学	海外所蔵植民地史料の研究	5
白井 佐知子	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授	明清史	商人史料の研究	5
岡崎 敦	九州大学・大学院人文科学研究科・准教授	仏中世史	教会史料の研究	10
蔵持 重裕	立教大学・文学部・教授	日本中世史	惣村史料の研究	10
栗原 純	東京女子大学・現代教養学部・教授	台湾近代史	台湾総督府文書の研究	10
高橋 一樹	国立歴史民俗博物館・研究部・准教授	日本中世史	鎌倉・室町幕府史料の研究	10
林 雄介	明星大学・日本文化学部・准教授	朝鮮近代史	朝鮮総督府関係史料の研究	5
永島 広紀	佐賀大学・文化教育学部・准教授	朝鮮近代史	朝鮮総督府関係史料の研究	10
松田 利彦	国際日本文化研究センター・研究部・准教授	朝鮮近代史	近代朝鮮警察史料の研究	5
三浦 徹	お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科学研究科・教授	イスラム都市史	裁判史料の研究	5
(研究補助者)				
崔 誠姫	アーカイブズ研究系・リサーチアシスタント	日本近代史	植民地関係史料の研究	5
合計 13名				

### 【概要（背景と目的）】

- ・「背景」と「目的」は、概要の中に入れて記入している場合は、特立して記す必要はありません。
- ・半頁以上、1頁以内で記入して下さい。
- ・【全体の研究成果】等他の記入欄と同内容のことを書かざるを得ない場合でも、他の記入欄と数行にわたって同一内容（成果出版物の目次を記す等）になるような記入はしないで下さい。

#### 背景

日本の歴史的なアーカイブズの特質をグローバルな視点から比較して追求しようとする研究は、アーカイブズ学でも歴史学でも国内では行われたことがなかった。海外では、わずかに二つ、研究成果が存在するものの、その成果刊行物の編集は、西欧中心主義的なものであった。ここに西欧中心主義を克服するために、東アジアを中心として歴史的アーカイブズの比較研究を行う意義がある。その場合、東アジアと西欧という従来の二項対立的パラダイムに陥ることを防ぐために、イスラーム世界も含めた多元的比較を試みた。

一方、アジア太平洋地域においては、1990年代後半以降、アーカイブズをめぐる環境が急速に進歩している。とくに韓国におけるアーカイブズ制度の進展と人材育成は目を見張るものがある。こうした制度的背景をもとに、今後は各地域を横断した具体的なアーカイブズ情報の共有化が求められてこよう。本プロジェクトでは、そうした国際的な流れの第一歩として、東アジア地域における旧植民地関係資料の所在情報を収集し、情報共有化モデルを構築することをめざし、とくに日韓関係に関わるアーカイブズを記録構造認識論の視角から明らかにし、日韓両国共通の検索利用システム構築を研究することを試みた。

#### 目的

本研究は、日本を含む東アジア地域を中心としたアーカイブズ資源を対象に、その存在形態と特質を国際的な環境のなかで明らかにするとともに、文化資源としての共有化の方法について検討することを目的としている。研究は時代的に大きく二つの柱に分けて進める。ひとつは中近世を主たる対象にした比較研究で、日本・韓国・中国の東アジア3カ国を中心にイスラーム・西欧をも視野に入れて、史料学的研究に重点を置いた研究を行う（「多国間比較」班が担当）。もうひとつは、近現代、とくに植民地統治期の日本・韓国・中国・台湾に焦点を当てた研究で、同じく比較史料学的研究を基盤としつつも、歴史資料を両国が相互に利用できるための基礎的情報の収集と史料構造の分析、さらには利用モデルの開発を目的といったアーカイブズ資源としての共有化の研究に大きな比重を置いている（「植民地関係史料」班が担当）。

なお、本研究は、科学研究費補助金基盤研究(A)「歴史的アーカイブズの多国間比較に関する研究」（研究代表者渡辺浩一、2004～2007年度）、同「朝鮮総督府文書を中心とした旧植民地関係史料の共有化に関するアーカイブズ学的研究」（研究代表者安藤正人、2005～2008年度）、人間文化研究機構総合推進事業「人間文化研究資料の多元的複眼的比較研究」（代表者渡辺浩一、2008, 2009年度）の研究成果も利用して行われた。

## [全体の研究成果]

- ・この欄に、全ての出版物を並べて記入しないようにして下さい。出版物の一部分を記入することは構いませんが、成果物の一覧は、[成果出版物・論文等]の欄に記入して下さい。
- ・半頁以上、1頁以内で記入して下さい。

### 「多国間比較」班

本研究班は、人文科学における西欧中心主義を相対化する試みの一つとして、アーカイブズ学における史料認識論研究、歴史学における史料論研究の分野における、比較研究であった。相対化の方法として、日本と西欧、アジアとヨーロッパといった二項対立的比較を避けるために、イスラーム世界をも比較の対象とした。

研究活動は、ソウル・上海・アンカラ・パリ・東京において行われた5年連続のシンポジウムが軸であった。そこでは、アーカイブズ学の基本概念の一つである出所原則に基づき、中近世に存在する中央政府・地方政府・村落・都市・商人といった組織体ごとに、その活動に伴って授受・作成・蓄積される文書（群）についての比較を行うとともに、裁判や相続に伴う特定の文書類型の比較や、文書媒体（石・板・紙）、手書きと印刷、リテラシーなどといった当該研究の前提的領域の比較も部分的には着手した。

その結果、日本における文書の現存状況、これは中近世当時における作成と使用の問題、後世の保管と再使用の問題、近現代における研究への利用の問題などが複合した結果であるが、日本のあまりにも豊富な史料状況が世界的には非常に特異であることが次第に明らかとなった。それと同時に、例えば総体として同じ東アジアであることの共通性は認識しにくく、共通性の組合せは出所の種別により大きな変移があることが明らかになった。二項対立的比較を打破することに確実な一歩を踏み出したといえる。

### 「植民地関係資料」班

本研究班は、日本を含む東アジア地域を中心としたアーカイブズ資源（記録史料）を対象に、その存在形態と特質を国際的な環境のなかで明らかにするとともに、文化資源としての共有化の方法について検討することを目的とした。

本計画のなかでとくに大きな成果としては、「守屋栄夫文書」を収集したことである。宮城県大崎市の守屋家に保管されていた1万8000点におよぶ資料群は、内務官僚・朝鮮総督府官僚・衆議院議員として、大正中期から昭和戦前期にかけて活躍した守屋栄夫の個人資料である。2006年度に調査を開始し、同年12月に大崎市から戸越旧館へ搬入し、清掃を行った。その後、2007年度に正式な寄贈手続きを経て、立川新館にて整理と仮目録作成を行い、2008年度末に整理を終え、一般公開となった。本資料群は1920年代の朝鮮統治に関する第一級資料であることから、韓国の研究機関および研究者らの関心を集め、現在、国史編纂委員会とのあいだで共同研究の準備作業を開始し、今後の国際共同研究に発展することが期待されている。

また、この他にも在朝日本人を対象とした口述記録の収集を行い、とくに京城帝国大学関係者からの口述記録収集を積極的に行った。なお、この研究活動は現在も継続しており、今後の発展が期待されるものである。

### 【成果出版物・論文等】

- ・年次順に分けずに、【出版物】、【論文】、【その他（学会発表）（公開データベース）等】の区分で記入して下さい。記入内容は、出版物の場合は、書名（平成□□年□月、□□書房、全□□□頁）、内容（執筆者名、論文名）とし、論文の場合は、執筆者名、論文名、掲載誌名、巻号、最初と最後の頁、発表年月、査読の有無を原則とします。
- ・論文名は「 」に、書名・雑誌名は『 』に入れるのを原則とします。
- ・論文名や学会発表、データベース名は、一件ごとに「・」や①②③…を使って区別しやすいように記入して下さい。
- ・データベースは公開されているもののみ記載して下さい。

### 【出版物】

年次研究成果報告書『近世東アジアにおける組織と文書』2005年、335頁

（2004年韓国でのシンポジウムが内容であるため省略）

年次研究成果報告書『日韓近現代歴史資料の共用化に向けて—アーカイブズ学からの接近—』

2005年、\*\*\*頁（2004年立教大学でのシンポジウムが内容であるため省略）

年次研究成果報告書『東アジアにおける歴史と記憶』2006年、102頁

（2005年の研究会と同内容であるため省略）

年次研究成果報告書『近世アーカイブズの多国間比較』2008年、236頁

（2007年東京でのシンポジウムが内容であるため省略）

国文学研究資料館アーカイブズ研究系編『歴史的アーカイブズの多国間比較』, 岩田書院, 436p（執筆者名・論文タイトルはシンポジウムと同一のため省略し、構成のみ示す。）

第1部 統治組織 第2部 家と村落 第3部 商人と都市

第4部 訴訟文書と相続文書 第5部 媒体とリテラシー

研究成果報告 *Redefining the Archives History: Multilateral Comparative Study on Archives of Medieval and Early Modern Times*, 2010年、201頁

（上記岩田書院刊行図書の英語版であるため内容省略）

### 【論文】

渡辺浩一「前近代日本のアーカイブズとその管理」(ハングル訳有), 『奎章閣』, ソウル大学奎章閣, 34号, 2009, 査読無

### 【その他（学会発表）（公開データベース）等】

渡辺浩一、Pre-modern Archives and their management in Japan, Session 037: Documentation and Archives Managements in Traditional East Asia, ICA Kuala Lumpur 2008

加藤聖文、A Report on Making a Collection of a Personal Papers concerning Japanese Colonial Administration, and Opening to the Public in Japan. (International Conference 2010 “Taiwan e-Learning and Digital Archives”(Academia Sinica: Taipei 2010)

加藤聖文: 植民地官僚の個人文書の発掘と公開の今後—守屋栄夫文書の紹介(研究集会 2008 「植民地朝鮮で蒐集された『知』の歷程—朝鮮総督府・京城帝国大学関係者の個人アーカイヴからの視線」九州大学韓国研究センター、2008)

加藤聖文: 植民地の記憶都市・福岡—アーカイブズ学の果たすべき役割—(国際シンポジウム 2005「植民地研究の展望—日本統治期朝鮮半島を中心として—」九州大学韓国研究センター、2005)

加藤聖文: 植民地官庁における文書管理制度—台湾総督府における保存・廃棄・引継—(シンポジウム「記録史料管理と近代」韓国国家記録研究院、ソウル、2004)

## 【展示・シンポジウム】

(展示)

タイトル、会期(期間)、会場、入場者概数

(シンポジウム・講演会)

タイトル、期日、会場、参加人数概数、個別発表者名・講演者名、個別発表・講演タイトル

展示に付随した講演などは、頭に「\*」を付して展示の項に註記しても構いません。

(展示)

(シンポジウム・講演会)

### 国際シンポジウム「近世東アジアにおける組織と文書」

期日 2004年11月22日・23日 会場 韓国 国史編纂委員会 参加者 25名

[中央政府における記録の作成と保存]シン・ビョンジュ(ソウル大学奎章閣)「王室での記録の生産と保存—朝鮮王朝実録、儀軌、実録形止案を中心として—」、大友一雄「江戸幕府と記録管理」

[地方行政機構における文書処理と保存]キム・ヒョニョン(国史編纂委員会)「朝鮮時代地方官衙における記録の生産と保存」、山崎圭(アーカイブズ研究系)「日本近世における幕府領の支配と史料」

[家と村落、行政と共同体]ムン・スクジャ(国史編纂委員会)「近世における両班家門の文書伝来と構造」、イ・ヘジュン(公州大学)「朝鮮後期における村落文書の生産と管理」、高橋実(アーカイブズ研究系)「日本近世村落における文書の作成・管理・保存について」、王振忠(復旦大学中国歴史地理研究所)「徽州村落文書の形成—二種類の写本『新安上溪源程氏郷局記』を中心として—」

[商人・同業組織と行政]須川英徳(横浜国立大学教育人間科学部)「朝鮮時代の商人文書について」、渡辺浩一「日本近世の商業史料について」

### 国際シンポジウム「日韓近現代歴史資料の共用化に向けて—アーカイブズ学からの接近—」

期日 2004年12月11日・12日 会場：学習院大学 参加者 151名

日韓文化交流基金より助成金

[基調報告]金 翼漢(韓国明知大学校教授)「歴史資料共用化の前提」、安藤正人「歴史資料の共用化とアーカイブズ学の課題」

[朝鮮総督府関連史料の構造分析]李 炅龍(韓国国家記録院学術研究士)「国家記録院所蔵朝鮮総督府文書をめぐる現状と課題、林雄介「韓国における歴史資料所蔵機関の現状と課題—日本側研究者から見た視点—」、加藤聖文「朝鮮総督府文書と個人史料のアーカイブズ学的考察」、辻弘範(学習院大学東洋文化研究所助手)「戦後における朝鮮総督府関連史料の収集—「友邦文庫」の場合—」

[朝鮮総督府関連史料の情報管理]李承輝(韓国記録管理学教育院教授)「東アジア植民地記録の特性と記録館」、許英蘭(韓国国史編纂委員会編史研究士)「韓国所蔵植民地期史料の所在データベース化事業について」、竹内桂(国文学研究資料館アーカイブズ研究系 RA)「日本所蔵朝鮮総督府関連史料の概要と検索システム構築の課題」

### 国際シンポジウム「東アジアにおける文書資料と家族・商業および社会」

期日 2005年8月25・26日 会場 宝隆賓館(中国上海市逸仙路180号) 参加者 28名

[報告] 翟屯建(黄山市地方志辦公室)「徽州文書の発見、収集、整理と徽州文書の価値について」、王宏(上海図書館)「盛宣懷档案概述」、蔵持重裕「日本中世の商業関係文書について」、王振忠(復旦大学)「清代における徽州のある小農家庭の生活状況—『天字号鬮書』に対する考察」、吉田ゆり子(東京外国語大学)「武士への憧れ—日本近世における百姓と武士の間」、渡辺浩一「日本近世都市の法令伝達—掲げる・写す・印刷する—」、唐力行(上海師範大学)「清代蘇州の社会管理—蘇州の碑刻に対する考察」、高橋実(国文学研究資料館)「1840年代在郷における商い金紛争とその特質—商い帳簿認識と訴訟工作—」、阿風(中国社会科学院歴史研究所)「明清徽州訴訟文書の来源、分類とその史料としての価値」

#### 戦後60周年記念学術シンポジウム「戦争の記憶とアーカイブズ—喪われた記憶の再生をめざして—」

期日 2005年12月17日 会場 学習院大学 共催: 日本アーカイブズ学会 参加者 103名

[報告] 安藤正人「趣旨説明 喪われゆく記憶の再生に向けて」、加藤聖文「戦争と支配の記録をめぐる今日的課題—東アジアにおける「歴史認識」の前提—」、前川佳遠理「東南アジア占領と残された記録—記憶の記録化と戦後の課題—」、金慶南(国家記録院学術研究士)「朝鮮における植民地都市に関する記憶の記録化」、栗原純(東京女子大学教授)「日本統治期台湾における庶民の記憶」、檜山幸夫(中京大学教授)「戦争記念碑が語る内地と外地の記憶」

#### 国際シンポジウム「オスマン朝と中近世日本における国家文書と社会動態」

期日 2006年9月19日 会場 アンカラ大学言語歴史地理学教授会会場 参加者 22名

[研究報告] ユルマズ・クルト(アンカラ大学)「オスマン朝の地方官僚制度と史料の生成」、高橋一樹「日本中世における裁判文書の作成・保管—武家文書を中心に—」、ヒュルヤ・タシュ(アンカラ大学)「オスマン朝の中央官僚制と文書作成」、大友一雄(国文学研究資料館)「江戸幕府の組織構造と情報管理—奏者番職を中心に—」、オゼル・エルゲンチ(ビルケント大学)「社会史研究におけるオスマン朝文書史料の有効性」

#### 国際シンポジウム「アーカイブズ、権力、社会(中世・近世の西欧とアジア) 文書管理に働くさまざまな力」

期日 2007年6月18日 会場 パリ(国立文書館歴史資料センター) 参加者 45名

[国家の諸機関(中央および地方のアーカイブズ)]

高橋一樹「日本中世の国家機構における文書の作成・保存と廃棄」、大友一雄「江戸幕府における記録管理・アーカイブズ・歴史叙述」、オリヴィエ・ギョジャン/オリヴィエ・ポンセ(国立古文書学校)「フランスにおける国家文書—中央および地方、12-18世紀」

[都市] ヴァネッサ・ハーディング(ロンドン大学)「名前と数: 近世ロンドンにおける情報の収集と共有(1500年頃—1700年)」、渡辺浩一「日本近世の首都行政における蓄積情報の身分間分有と利用」

[商人] 西向公介(広島県立文書館)「近世日本の商家文書について」、ジャック・ボタン(フランス国立研究センター)「商人文書、商業関係文書: 中世末期から近世にかけてのフランスと西欧」

[総括] ロベール・デシモン (社会科学高等研究院) 「アーカイブズのよき利用とはなにか」

### 国際シンポジウム「近世アーカイブズの多国間比較」

期日 12月14日・15日 会場 立教大学 共催：日本アーカイブズ学会 参加者 107名

[近世アーカイブズをめぐる統治と社会] オゼル・エルゲンチ (ビルケント大学)、ヒュルヤ・タシュ (アンカラ大学) 「オスマン国家官僚における文書作成—時期区分、組織化の展開、文書類の多様化および大量化—」、臼井佐知子「清朝行政文書の作成と管理について」、オリヴィエ・ポンセ (フランス国立古文書学校) 「近世フランス王権によるアーカイブズの構築と利用 (15-18世紀)」、高橋実 (国文学研究資料館) 「日本近世社会の特質と文書の作成・管理について」

[実践される近世アーカイブズ] ヴァネッサ・ハーディング (ロンドン大学) 「近世イングランドと書かれ印刷される言葉」、大友一雄 (国文学研究資料館) 「幕府勤役と情報伝達—役人交代から記録管理を考える—」、金炫栄 (韓国国史編纂委員会) 「文書・記録と‘休紙’：朝鮮後期文書の伝存様相」、王振忠 (復旦大学) 「村落文書と村落志—徽州歙県西溪南を例として—」

### 国際シンポジウム「帝国支配とアーカイブズ—日韓台アーカイブズ資源共用化の可能性—」

11月30日 (日) 立教大学太刀川記念会館 参加者 93名

安藤正人 (学習院大学) 「問題提起：東アジアのアーカイブズ資源共用化に向けて」、加藤聖文「帝国支配をめぐる記憶と記録—在朝日本人の個人文書と口述記録の収集と公開」、松田利彦 (国際日本文化研究センター) 「朝鮮支配をめぐる個人記録の所在—総督府官僚を中心に」、張龍經 (韓国・国史編纂委員会) 「植民地関連口述資料の現況及び今後の収集方向」、鍾淑敏 (台湾・中央研究院台湾史研究所) 「台湾における植民地期資料の収集と公開」、宋炳卷 (韓国・国史編纂委員会) 「韓国国史編纂委員会所蔵植民地期資料の現況について」、永島広紀 (佐賀大学) 「植民地期の朝鮮における「記録」と「史料」—李王職・中樞院・朝鮮史編修会・京城帝大—」

### 国際シンポジウム「帝国の拡大とアーカイブズ」

期日 2009年12月20日 会場 立教大学太刀川記念会館 共催：日本アーカイブズ学会 参加者 85名

加藤聖文「問題提起：帝国の支配構造とアーカイブズ制度—連関性と補完性の視座」、鈴江英一 (元国立史料館長) 「辺境に蓄積するアーカイブズ—内国植民地北海道における国家と地方」、高江洲昌哉 (神奈川大学兼任講師) 「対馬島庁設置の史料学的接近」、東山京子 (学習院大学大学院) 「台湾総督府文書のアーカイブズ学的研究—皇太子訪台関係文書を中心に—」、崔元圭 (釜山大学校) 「朝鮮総督府が作成した土地関係帳簿の類型と性格」、金慶南 (学習院大学客員研究員) 「帝国の植民地支配と戦後処理記録の再認識—植民地朝鮮支配・処理の決裁構造と原本出处を中心に」

## 研究会・資料調査

年度毎に分けて日付順に研究会と資料調査を別々に記入して下さい。(研究打合せは記入しないこと。)

【平成〇〇年度】

(研究会)

期日、会場、発表者(報告者)とタイトル

(資料調査)

期日、調査先

【平成16年度】

(研究会)

8月19日、国文学研究資料館、

渡辺浩一「前提的知識の共有と方法論の模索」、須川英徳「朝鮮時代の統治機構と各種文書」

1月5日、国文学研究資料館

浅井紀「宝巻史料について」

(資料調査)

11月24日、韓国忠清南道論山市ユン家、宗学堂

【平成17年度】

(研究会)

9月15日、国文学研究資料館

金慶南「韓国における大統領記録の管理について」

10月26日、国文学研究資料館

吉沢佳世子「北海道における記録調査」

竹内桂「国立サハリン州文書館調査報告」

11月20日、国立歴史民俗博物館

ブノワ＝ミシェル・トック(リル第3大学教授、仏)「西欧中世における文書史料と資料管理」

11月18日、国文学研究資料館

永島広紀「戦時下の朝鮮における『国民総力運動』に関する資料状況」

12月22日、国文学研究資料館

竹内桂「坪井幸生氏聞き取り調査報告」

金慶南「日本で外国人研究員として半年間の活動」

(資料調査)

8月27日、上海図書館

8月30日、中国安徽省黄山市博物館

11月23～27日：韓国調査(加藤聖文) 国史編纂委員会・明知大学校・ソウル特別市南山図書館

【平成18年度】

(研究会)

7月20日、都心の喫茶店、

渡辺浩一「高松洋一氏のオスマン朝文書作成・管理関係論文を読む」

11月21日、国文学研究資料館、

岡崎敦「パリ研究会の趣旨について」

小山啓子「近世フランス史研究の現況紹介」

堀越宏一「文書管理と王権」

花田洋一郎「中世後期における都市史料の伝来とその性格について」

徳橋曜「イタリア商人文書の在り方」

(資料調査)

9月18日、アンカラ地籍・地券簿総局

9月21日 トルコ総理府オスマン文書館(イスタンブール)

9月21日、トプカプ宮殿博物館内文書館(イスタンブール)

【平成19年度】

(研究会)

- 4月26日、国文学研究資料館、  
渡辺浩一「日本近世の首都行政における蓄積情報の身分間分有と利用」  
文叔子（韓国国史編纂委員会）「両班家門と公文書」
- 5月31日、都心の喫茶店、渡辺浩一「東京シンポジウムに向けて」
- 6月13日、フランス国立古文書学校、（東京シンポジウム準備報告会）
- 8月19日、立教大学、（東京シンポジウム準備報告会）
- 12月18日、国文学研究資料館  
小林実「日本人のジンギスカン」  
エルキン・ジャン「1930年代日本の思想におけるトルコ・ハンガリー国民構想の影響」

(資料調査)

- 6月18日、フランス国立中央文書館、国立図書館西洋手書本部  
6月20日、プロヴァン図書館・文書館  
12月13日、国立国会図書館 12月14日、鎌倉国宝館

【平成20年度】

(研究会)

- 2月20日、国文学研究資料館  
ヒュルヤ・タシュ「『歴史』と『歴史家の情報源』」  
オゼル・エルゲンチ「『歴史』と『歴史家』」  
金炫栄「韓国における古文書学の研究史」  
高橋一樹「古文書学と史料学」
- 3月5日、国文学研究資料館  
高橋実「史料調査における現状記録」  
王振忠「“現場”で歴史を解読する——徽州文書とフィールドワーク」  
臼井佐知子「四川省重慶府巴県、江蘇省蘇州府太湖廳および安徽省徽州府績溪県の訴訟文書の比較研究」

(資料調査)

【平成21年度】

(研究会)

- 11月22日、慶応大学日吉キャンパス  
高橋一樹「古文書学と史料学—日本中世を中心に—」  
マルク・メジオルフスキー「ドイツ語圏における文書形式学とモニュメンタ・ゲルマニエ・ヒストリカ」  
エレン・ヴィッダー「書記官長と尚書局：中世後期の文書形式学への新しい接近」  
\* 西欧中世史料論研究会共催

(資料調査)